



優秀賞 (全国優秀賞)

カMEMシなんて気にしない

秋田市立御所野小学校 五年 三浦英登

「あれ、このご飯、黒い点々があるよ。」

ぼくはいつも大仙市の祖父母が作ったお米を食べていますが、ある日、きれいな白いご飯に少し黒くなっているところがあることに気がつきました。食べたくないなと思っていると、母が、「これはカMEMシが食べちゃったあとなんだって。見た目は良くないかもしれないけれどおいしいから食べてみてよ。」

と言いました。しかたなくおそるおそる食べてみたら本当にいつも通りおいしかったので、安心してたくさん食べました。

カMEMシがお米を食べると聞いてびっくりしました。ぼくが知っているカMEMシは、背中が平べったくて、臭いにおいを出す虫ですが、パソコンで調べてみたら、米を食べるカMEMシは細くて小さくてバツタみたいな形をしていました。「斑点米カMEMシ」と呼ばれているのだそうです。このカMEMシが口からのぼした管を稲の穂に刺し、ストローを使うみたいにチュウと吸うと、お米に黒い点々が残ってしまうのです。

祖父に話を聞くと、

「カMEMシにやられたお米が多くなると、米の等級が下がって値段がガクンと落ちてしまう。それを防ぐために農薬をたくさん使

うと、カMEMシも負けまいとさらに強くなってしまっただ。見た目が悪いと買いたくないよな。」

と話していました。確かに、スーパーなどで売っているお米は真っ白できれいです。でも祖父母が作ったお米は虫にやられていたってどこにも負けないくらいおいしいです。そんなことでお米の値段が下がってしまうなんてくやしいなと思いました。みんな見た目を気にしないで食べてくれたら、農薬が減らせて農家の人が助かります。お米だけでなく、野菜や果物だって、少しくらい傷や虫食いがあっても、農家の人と自然が大切に育ててくれたものだから、大事に食べなければいけないと思います。

祖父はまた、こんな話もしていました。

「昔は、米につくカMEMシは暖かい地方にしかいなかったのに、秋田でも当たり前のようにつばいいるんだよ。地球温暖化のせいかな。お米の保管も昔は小屋の倉庫に入れておくだけだったけれど、今は冷蔵庫に入れておかないと米虫がわいてくるよ。」

そう言っつて、祖父は冷蔵庫から米を一袋出してうちにくれました。地球温暖化が、自分が食べるものにまでえいきょうしているのかと思うとぞっとしました。ぼくもゴミを分別したり電気を節約したり、地球が暑くならないようにがんばろうと思いました。

ぼくは、少しくらい見た目が悪くても本当においしいものを食べる人になりたいです。おいしいお米を作ってくれる祖父母に感謝して、一粒も残さず食べようと思います。